

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0791200033		
法人名	株式会社 福祉ケアサービス		
事業所名	ホームズ くにみの郷		
所在地	〒975-0015 福島県南相馬市原町区国見町二丁目11番地の1 (電話) 0244-24-6222		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤	19人, 非常勤 人, 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有()円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 83.3歳	最低	69歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺病院、草野歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人が事業所開設にあたって「地域ぐるみ、地域に根ざした介護」の実現を目指して、住宅地に開設した事業所であり、同法人の通所介護事業所と居宅介護支援事業所が隣接している。広い敷地には畑や花壇等があり、季節によっては利用者が日光浴を楽しんでおり、家庭的で自由な雰囲気であり、ゆったりと過ごしている。開設以来職員の異動は退職者は1名のみで管理者・ユニットリーダーを中心に職員のチームワークが良好で、利用者も落ち着いており、表情がとても明るくなごやかである。事業所にはスプリンクラーが設置されており、また、各ユニットには玄関のほかに2箇所の出入口(非常口)があり、災害時対策について整備されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議は昨年2月より定期的開催されている。介護計画についても全職員が常に確認できるように整備されており、計画の見直しも適切に実施されている。本日の勤務者を掲示し、利用者および家族にわかるように工夫している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で取り組んでおり、評価は運営推進会議や職員会議等で報告し改善に向けて取り組み、今後のサービスの質の向上に努めることにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は昨年2月より定期的開催されている。行政区長、市役所高齢福祉課長補佐、地域包括支援センター職員、介護支援専門員協会、利用者代表、家族代表等で構成されており、内容も事業所の報告等(利用者の状況、行事等)のほかに、委員から防災訓練やボランティア等の提言があり、サービスの質の向上に反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族へは2ヶ月に1回発行の広報誌で行事等の報告をしており、金銭管理については面会時に納帳、領収書等を確認してもらい承認印をもらっている。利用者の状態に変化があった場合にはその都度報告している。なかなか面会できない家族にとっては日常生活の把握のためにも、月1回の請求書送付の際に利用者の現況を知らせることが望まれる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議の開催により、地域との交流が増えてきているが、法人の運営方針である「地域ぐるみ、地域に根ざした介護」の実現のためにもさらに委員等の協力を得て、町内会への加入や地域の行事の把握、近隣住民の事業所の行事への参加等の呼びかけをし、さらに緊密な関係を築くことが望まれる。
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを踏まえた理念となっている。地域の方が認知症への理解や関心を深め、利用者が地域の中で暮らし続けられるよう支援していくことをうたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に掲示するとともに、ユニット会議等で唱和し、全職員で理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の開催により定期的なボランティアの受入れ等地域との交流は増えてきているが、「地域ぐるみ、地域に根ざした介護」の実現を目指している事業所としてはさらに地域との交流に努められることが望まれる。	○	運営推進委員等の協力を得て町内会へ加入されることが望ましい。地域の行事の把握や事業所の行事やお知らせ等を回覧してもらい、相互で情報交換を行なうことにより、さらに交流が深まると思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はじめ全職員が自己評価の意義を理解しており、全職員で日頃のケアを振り返りながら自己評価に取り組んでいる。評価結果は運営推進会議や職員会議で報告し改善することになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年2月から定期的に(奇数月)開催しており、内容も事業所の状況報告だけでなく防災訓練、ボランティアの受入れ、家族の交流等について協議されている。また、外部評価の結果を報告している。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状態の変化等については随時報告しており、家族への報告は2ヶ月に1度発行している広報誌で行事や職員の異動等について報告している。金銭管理状況や近況報告については面会時に報告しているが、定期的な報告とはなっていない。	○	毎月請求書を送付する際に、利用者の日頃の状態や行事へ参加の写真等を同封するなどして利用者の近況等を定期的に知らせることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に意見の把握に努めており、出された意見は些細なことでもすぐに対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、退職者は1名のみである。産休の職員が2名おり、そのため法人内の異動を行ったが、利用者の動揺が最小限になるよう配慮している。利用者も産休については理解をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職種や段階に応じて順次参加している。研修終了後は報告書を作成し、職員会議で発表し、研修内容の共有をしている。また、資格取得についても支援しており、資格取得時には待遇に反映する体制となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設後2年経過したが、同業者との交流はしていない。交流を通じたサービスの向上に向けて福島県認知症グループホーム連絡協議会への加入を検討中である。	○	事業所の質の確保のためにも同業者との交流や連携は不可欠であることを踏まえ、同業者と交流されることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅酒・漬物・おはぎ等の作り方や季節の行事食や慣わしについても利用者から教えてもらっており、日々の生活の中で利用者と共に学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望の把握には入居時の生活歴をもとに、日々の暮らしの中で利用者のさりげない言葉や行動・表情等から意思をくみ取り、利用者が望む生活に近づけるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を踏まえた介護計画となっている。全職員が各利用者をつみ、介護計画に反映させるよう努めている。また、ケア記録の際には各利用者の介護計画書を常に確認できるようになっており、計画に沿ったケアに繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しており、利用者の状態に変化がある場合には随時見直しをしている。常に現状に即した介護計画に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援しており、通院には家族が同行している。また、職員が同行する場合もあり、利用者それぞれの状況に応じて支援している。受診後は家族に報告し情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる指針」により利用者、家族等への説明と同意を得ているが、利用者それぞれの意向を職員間で共有するまでには至っていない。	○	利用者や家族等に対して、重度化・終末期に対する意向の確認を行うとともに、職員間での方針の共有に取り組むことが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者それぞれの状況に合ったやさしい言葉掛けを実施しており、プライバシーの保護に努めている。利用者の記録等の保管や記入時の状況も個人情報の取り扱いに気を付けて実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に「安心してくつろげる家となる」とうたっており、利用者の希望を大切にし、それぞれのペースで、安心して生活できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望する食事の提供や外食の機会を積極的に設けるなど食事を楽しめるように工夫している。利用者と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み食事をしているが、一部の職員のみが利用者と同じものを食べている。		全職員が利用者と同じ食事を摂るよう検討されることを望む。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにしており、入浴時間も午前午後及び夜でも利用者の希望に沿った時間に入浴できるようにシフトを組んで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	「利用者の話をよく聞く」ことにより、それぞれのことやしたいことを把握し、食事の後片付け、掃除や編み物などを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	外食・ドライブ・散歩など利用者の希望により、実施している。また、博物館の見学・白鳥見学、道の駅見学、紅葉狩り、国見山、夜ノ森公園、馬事公苑散策等外出の機会を多く企画し、実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアに取り組み、鍵は掛けていない。センサーにより外出したい利用者に対しては職員が付き添い対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーが設置されている。消防計画に沿った避難訓練を実施するとともに、夜間を想定した訓練も実施している。災害時の食料品等は備蓄はされている。運営推進委員を通じ地域消防団などへ働きかけをしている。		備蓄品は避難訓練時に利用者に提供し、取り扱いや味等の確認をされるとともに消費期限の確認をされると良いと思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事や水分の摂取量を記録し管理している。また、定期的に体重測定をし体調管理につとめている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、コーナーには畳やこたつの和風の空間とソファや本棚のある洋風の空間があり、通路にはベンチや椅子が置かれ利用者が好きな場所でくつろげるように工夫されている。利用者の編んだものを飾ったり、行事の写真を掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者の使い慣れた家具や衣装ケース、自分専用の冷蔵庫などが持ち込まれており明るく快適な空間となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ホームズくにみの郷

記入担当者名 大井 利巳

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。